

感染防止対策の徹底について

2学期がスタートし、1週間が経過します。例年よりも少し早いスタートですが、どのような1週間でしたか？

さて、新型コロナウイルス感染症については、最近、前橋市内で複数のクラスターが発生するなど、1週間ごとの新規感染者数の平均が、1日当たり10人を超える状況にあります。「県外行動歴なし」の感染が全体の約8割、経路不明の感染者数も約4割に上るなど、若者を中心に、県内の広い範囲で感染が広がっています。家族や親族、友人などを介して児童生徒や教職員が感染するケースや無症状者が感染を広めるケースもあり、親しい間柄であっても、基本的な感染防止対策を徹底することが重要になっています。引き続き、感染防止に取り組んでいきましょう。ご協力をお願いします。

ところで、ユヴァル・ノア・ハラリ (Yuval Noah Harari) という名前を聞いたことがありますか？ 本校の図書館や書店などで、『サピエンス全史』、『ホモ・デウス』、『21Lessons』(いずれも河出書房新社刊)などの本を見たことや、あるいはいずれかの著書を既に読んだことがあるという人もいるかもしれませんね。氏は、イスラエル人歴史学者・哲学者で、紹介した著書の累計発行部数は、全世界で2,000万部を超えているといわれます。

そのハラリ氏が今年3月、アメリカのTIME誌に「人類はコロナウイルスといかに闘うべきか — 今こそグローバルな信頼と団結を (原題: In the Battle Against Coronavirus, Humanity Lacks Leadership)」と題して寄稿した記事が、氏の著作全てを訳した柴田裕之氏により訳され、株式会社河出書房新社のサイト「Web河出」(<http://web.kawade.co.jp/bungei/3455/>)で公開されています。

この中で氏は、「感染症の大流行への本当の対抗手段は、分離ではなく協力」であると述べています。「こうした感染症について人々が認識すべき最も重要な点は、どこであれ1国における感染症の拡大が、全人類を危険にさらすということ」であり、「今日、人類が深刻な危機に直面しているのは、新型コロナウイルスのせいばかりではなく、人間どうしの信頼の欠如のせいでもある。感染症を打ち負かすためには、人々は科学の専門家を信頼し、国民は公的機関を信頼し、各国は互いを信頼する必要がある。」と述べています。

スケールを私たちの身近な生活に変換して考えても同じことが言えると思います。日々の生活の中で、一人一人が可能な限り感染防止対策

を講じること、自制的な行動をとるお互いを信頼すること、そして、万一、感染した人が出た場合でも、回復を見守り相互不信を募らせない姿勢などが大切であると思います。

新型コロナウイルスという前例のない状況に直面し、身のまわりにはこれに関する膨大な情報が溢れています。今日、情報化をはじめとした多くの技術の進歩により、社会の変化はめまぐるしく、未来の予想はかつてないほど難しくなっています。氏は、『サピエンス全史』の中で、「歴史は正確な予想をするための手段ではない。歴史を研究するのは、未来を知るためではなく、視野を広げ、(中略) 私たちの前には想像しているよりもずっと多くの可能性があることを理解するため」であり、「後から振り返って必然と思えることも、当時は、およそ明確ではなかったということが鉄則」であると述べています。たしかに、歴史を学ぶことで、正確な予想が可能になるわけではありません。けれども、歴史から学べることは、たくさんあると思います。特に失敗例からは多くのことが学べます。感染症の歴史については、この新型コロナウイルスの流行を機に、これまでの多くの著作物が再び注目されていたり、新たな知見を加えて発行されたりしています。そうしたものにも、ハラリ氏の主張と同様のことが多く述べられています。

「未知との遭遇」で、改めて、歴史を学ぶことが、今という現代を考えること、人間というものを考えること、そして、社会を考えるものであるということを思った次第です。

と、何かさも知っているようなつもりで書きましたが、スティーブン・スローマン、フィリップ・ファンバック著『知ってるつもり』(早川書房)によれば、人間はみな多かれ少なかれ「知識の錯覚」というものを起こしているため、自分が理解していると思っていることも、実は錯覚であり、本当は全貌を理解していないのに、知った気になっているということのようです(これも「知識の錯覚」か?)。こうした錯覚が起こるのは、人間はコミュニティーの中でそれぞれの専門分野の知識を持ち寄って、それを共有することで個人レベルの知能を超えた複雑な集団知能を生み出しているからなのだそうです。知識は、コミュニティーの各所に分散しており、皆がそれを共有している、誰もが、どこかに専門家がいる、きちんと理解していることを知っていて、分業・協業しているからこそ、社会はうまくいっているのだそうです。やはり、社会や他者に対する信頼や協力がキーワードなのですね。